

## 発達障がい研修（夜間スポット研修）

受講者総数 410名

期間 令和4年6月16日（木）～12月8日（木） 計12講座

場所 足立区こども支援センターげんき 研修室3

講師 作業療法士：有川真弓氏 言語聴覚士：計野ちあき氏

心理士：前川圭一郎氏、藤原彩子氏、山川恵子氏

## 【内 容】

発達障がい児に対する概念を知り、発達支援児保育のスキルアップを図ることをねらいとし、様々な分野からの『発達障がい児保育』について学ぶ。基礎編、応用編と分け、障害についてだけでなく、発達を促すあそび、言語発達や感覚統合、保育計画の立て方、進め方など多岐にわたる講義を継続的に行った。

## 【受講者の感想】

## \* 研修で学んだことを保育にどう活かしていきますか

## &lt;心理&gt;

・障害の診断がついていようがなかろうが、子どもたちがそれぞれ何かしら困り感を持っていたりするので、子どもたちが「わかる」ための工夫が必要だと思いました。自分のクラスにも発達的に「こういう状態だからこうなのか」と理解し、保育の中で視覚化を取り入れていきたい。

・私たちの目線ばかりで考えていたことが、少し当たり前と思っていたが、「なぜ?」「どうして?」という視点に戻って、その児にとって過ごしやすい環境を設定していく。また、担任間でも情報を共有していきたい。

## &lt;ST（言語聴覚士）&gt;

・子どもとの対話に配慮して吃音や言語障害を見極めるなどしていきたい。食事についても個々にもう一度進めていこうと思う。

・その子がどれくらいの名詞、動詞、助詞を知り、使うことが出来るか、理解はどこまでかを良く観察することだと感じました。どこを見れば良いのかポイントも教わったので、より子どもの理解に努めたいと思います。遊びを通しての「言葉」をその子とかわし、わかることば→言えることばを増やせるよう明るい関係をどんどん作っていきたい。

## &lt;保育&gt;

・個別の指導計画を作成する中で、得意なことに目を向けて言語化していく。苦手なことに対しては、なぜ苦手なのかを実態把握したうえで、成功体験を重ねていけるよう計画していく。

・園生活支援シートについて、当園でも活用しているが、更に掘り下げて、月目標、週目標としていくとより具体的なアプローチになるのだと気づいた。子どもの困り感に気づいた時に場合によっては年齢相応の対応や目標設定ではなく、その子らしくいられるためのものにしたいと思った。

## &lt;OT 作業療法士&gt;

・姿勢保持が難しかったり、触覚が過敏だったりと周りにも感覚に個性のある子が多くいるなど感じました。安全面に配慮しながらも面白い遊びを（米粉、片栗粉粘土等）取り入れてみたい。

・触覚が敏感な子には、情緒の安定が大切であるため、活動の前にかに安心、安全を保障できるかが大切なので一人ひとりに合ったタイミングで遊べるようにしていく。固有覚が敏感な子には力を使う動きを取り入れていく。前庭覚の子にはバランス遊びを取り入れていく。

## &lt;家庭連携&gt;

・保育をしていく中で子どものバックグラウンドもしっかりと把握し、保護者への支援も今以上に大切に行っていきたい。向き合っていかなければならないと改めて感じた。愛着をうまく家庭で築けない場合、保育者が安全基地になるようにしていきたいと感じた。